

Salon

Vol.141 2022年11月 冬号



ホール4F壁画 ポール・ゴッアマン作「レッスン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — アンサンブル・ミクスト
- 03 Phoenix Presents — パトリツィア・コパチンスカヤ ヴァイオリンリサイタル
ジョヴァンニ・ソッリマ 無伴奏チェロリサイタル
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 北陸有数のフェスティバル 武生国際音楽祭

同じメンバーで進化を続ける木管五重奏団 アンサンブル・ミクスト



2003年から活動进行けるアンサンブル・ミクスト。木管五重奏を同じメンバーで定期的に活動しているのは、世界的に見ても稀有な存在だろう。個々がオーケストラやソロでも活躍しながら、アンサンブルへの情熱を絶やすことが無い。2011年の大阪国際室内楽コンクール入賞と大阪に縁のある団体だが、今回は11年ぶりの大阪での出演。ザ・フェニックスホールの親密感溢れる空間では、どんなサウンドを響かせてくれるのか。ミクストは木管五重奏のオリジナル作品だけでなく、自身の編曲でレパートリーを広げるなど、木管五重奏の新たな地平を切り拓いており、今後どんな展開を見せてくれるのか楽しみなアンサンブルだ。ミクスト結成の経緯から今までの活動、そして今回披露するレパートリーを5人のメンバーに語ってもらった。コンサートでは、木管五重奏への飽くなき欲求を感じさせる5人の甘美な音楽を期待したい。

(取材・文：河井拓／公益財団法人 日本室内楽振興財団)

多彩なプログラムで11年ぶりに来阪！

Ensemble mixt

間もなく結成20年を迎えるそうですね。アンサンブル・ミクストが結成された経緯を教えてくださいませんか？

私たちが学んでいた東京藝術大学では2年生から室内楽の授業を受けられるので、木管五重奏で受講したのがきっかけですが、最初はホルンは別の奏者でした。私たちはアンサンブルの練習が本当に好きで、「練習魔」と言われるほど練習していたのですが、金管楽器であるホルンは負担が大きいのです。1年間の授業が終わった後は、暫く木管四重奏で活動していた時期もありましたが、「やっぱり五重奏をやりたい！」という思いが募りました。その時に「2学年後輩に優秀なホルンがいるぞ」って聞いて即スカウトして、嵯峨が加わって今のメンバーになりました。

大学を卒業されても、同じメンバーで継続されているのは珍しいですね。

やっぱり木管五重奏を取り組み続けたいという希望はありましたね、もう純粋にアンサンブルが楽しくて。

梶川と本多は海外に留学していた時期もありましたが、このメンバーでミクストを継続しているという意識は常にありました。

2011年に大阪国際室内楽コンクールを受けたのが一つの契機になりました。コンクールの準備は色々大変で、、、実は本多はまだ留学中だったんですよ。だから残りの4人で練習した録音を送って調整していました。Zoomの無い時代によく遠隔練習出来たなと思います(笑)。

結果的に3位を頂いて、多くの先生から「絶対に続けた方が良いよ。」と言っていて、東京でデビューコンサートを開催しました。

その後は自主公演だけでなく、ホールなどからの依頼やアウトリーチなど活動の幅が広がりました。今年はNHK公開収録もあります。でも、実は大阪ではコンクール以来演奏する機会が無かったので、ザ・フェニックスホールで出演することが出来て本当に嬉しく思います。

折角大阪で出演するので、11年前にコンクールで演奏した曲もプログラムに含めています。

今回のプログラムは本当にバラエティ豊かですね。

ミクストらしさが良く伝わるプログラムを考えました。ライヒャとヴィラ＝ロボスは、コンクールで掘り下げた曲です。コンクールから11年経ち、進化したサウンドをお届けできたと思います。

私たちはモーツァルトの音楽も好きでCDも出しています。今回はそのCDからセレナード第12番と、新しく劇場支配人序曲を本多が編曲して

います。

あとは、現在プロコフィエフの作品のCDを制作しているのですが、そこに収録している「ロメオとジュリエット」から幾つか抜粋。

また、陽の目を浴びていない作品の紹介も大切にしているので、ミヨーの「2つのスケッチ」を取り上げます。これは、ずっとやりたかった作品ですが、今回ようやく初めて取り組みます。

大阪のコンクールから今までの歩み、様々な編曲や新作への取り組みなど、ミクストの要素が存分に詰まった構成です。

モーツァルトは木管五重奏を作曲していませんが、ミクストが随分編曲されていますね。

元々、木管五重奏版の楽譜もあったのですが、実際に音を出してみると「こちらの方がバランスが良くなるじゃないか」などのアイデアが出て、自分たちで変えていくことが多いのです。原曲に近いような響きを目指してディスカッションしていくと、原型をとどめなくなってしまう場合がある。そして手書き譜のようになると、もはやミクスト編曲ですね(笑)。

今回の劇場支配人序曲は本多が一人で編曲を担当しています。編曲中も木管五重奏に編曲しているというより、メンバーの顔を思い浮かべながら作っています。「まーくん(尾上)は、このあたりの音域が得意だね」とか。この劇場支配人は曲調が華やかで、コンサートの最初に相応しいですね。

セレナードは元々、フルート以外の楽器が2本ずつの八重奏なんです。原曲の良い部分は崩したくなかったんで、元の音楽で聴きたいポイントは尊重しながらフルートを加えました。各楽器がメロディーに回っても、ハーモニーやバスラインを担当しても、それぞれとても素敵な音楽です。

モーツァルトの時代はフルートが参加できる音楽がとても少なく、フルートでモーツァルトの憧れの名曲を演奏出来、聴いて頂けるのが嬉しいですね。これはミクストだからこそ出来る取り組みですね。

プロコフィエフはCDも制作されているんですね。

プロコフィエフは元々「ピーターと狼」をアウトリーチでも演奏していて、いつかCDに出来たら良いねと話していました。そこで今回の「ロメオとジュリエット」と合わせて録音しています。プロコフィエフは管楽器の音色感が面白いのですが、それが上手く活かされている。澁潤とした響きというのは管楽器と相性が良いですね。

木管五重奏と言えばライヒャですね、24曲も作曲しています。

当時はセレナードのようにフルートが入っていない編成が多かったのですが、フルート奏者でもあったライヒャが木管アンサンブルにフルートを組み入れた。つまり木管五重奏の編成を作ってくれた作曲家ですね。

ライヒャは他にも幾つか取り組んだことはありますが、今回の二長調はコンパクトで響きも明るく、聴きどころが整理されて洗練されています。それに、今回は大阪に戻りますので、迷いなく自分たちの得意な曲としてこの作品を選びました。

今回は最後にヴィラ＝ロボスのショーロ形式の五重奏曲を演奏されます。
(※「ショーロ」とは、ブラジルのポピュラー音楽のスタイルの一つ)

コンクールで演奏した時には、これが審査委員の先生方から好評をいただいて、受賞記念コンサートでも演奏した記憶があります。南米のリズムのようなものに感じられますが、複雑でとても難曲なんです。楽譜もガイドなどの書き込みだらけ(笑)。

リズム遊びが特徴的なのですが、中間部のショーロの歌の様な部分、独特な哀愁漂う雰囲気を手く出したいですね。11年前はとにかく演奏することいっぱいだったのですが、今は南米の文化やキャラクターなども段々分かってきたので、そういうことも表現できるよう準備したいと思います。昔の自分たちに挑戦ですね。

コロナ禍もあって、最近自分たちの演奏したいプログラムのコンサートの機会も少ないので、今回のチャレンジングな曲目は本当に楽しみにしています。

大阪は活動のターニングポイントになった特別な地ですので、コンサートに出演できるのを本当に楽しみにしています。

アンサンブル・ミクスト

2022年12月11日(日) 15:00開演

一般4,500円 友の会会員4,050円

学生(25歳以下)1,500円(限定数)

■出演 梶川真歩(フルート)、本多啓佑(オーボエ)、尾上昌弘(クラリネット)、嵯峨郁恵(ホルン)、中田小弥香(ファゴット)

■曲目 モーツァルト：劇場支配人 序曲
ミヨー：木管五重奏のための2つのスケッチ
モーツァルト：セレナード 第12番 八短調 K.388
プロコフィエフ：ロミオとジュリエットより
ライヒャ：木管五重奏曲 二長調 op.91-3
ヴィラ＝ロボス：ショーロ形式による五重奏曲

■チケットのお求め・お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター

06-6363-7999(平日10:00～17:00 土日祝休)

アンサンブル・ミクスト 東京藝術大学の学生により2003年に結成。在学中より学内外の多数のコンサートに出演。第7回大阪国際室内楽コンクール管楽部門第3位受賞(同部門における日本人団体の史上最高位)。同年津田ホールにてデビューコンサートを開催し、好評を博す。2012年度、ヤマハ音楽支援制度・音楽活動支援対象に認定。(財)地域創造アウトリーチフォーラム事業に参加。2014年第二回目演奏会にて酒井健治氏への委嘱作品《Mixtures》を初演。同年63回ミュンヘン国際音楽コンクール木管五重奏部門出場。2016年デビューアルバム《ミクスト・ノート～木管五重奏曲集～》をリリース。2018年、NHK-FM「リサイタルノヴァ」に出演。日本各地でコンサートを開催するほか、小中学校でのアウトリーチ活動(音楽鑑賞会)、スタジオ録音等幅広く活動している。モーツァルトの作品を木管五重奏用にアレンジして収録した最新CD《ファンタジー》もナミレコードより好評発売中。これまでに室内楽を小林裕、守山光三、ステファン・パール諸氏に師事。ペルリン木管五重奏団のマスタークラスを受講。



ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

11月18日(金)
10:00 受付開始

イー・フェニックス
E-PHX優先予約

11月21日(月)
10:00 受付開始

一般発売

11月22日(火)
10:00

インターネット予約による
お申込みは11月24日(木)10:00から!

■注目アーティストシリーズ81

2023年
3月19日(日)

15:00開演 指定席
一般¥6,000(友の会会員¥5,400)
学生(25歳以下) ¥2,000

出演 パトリツィア・コパチンスカヤ(ヴァイオリン)、ヨーナス・アホネン(ピアノ)

曲目 シェーンベルク:幻想曲 op.47
ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第7番 八短調 op.30-2

ウェーベルン:ヴァイオリンとピアノのための4つの小品 op.7
ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第9番 イ長調 op.47

白い羽を持った天使か?それとも黒いマントを被った悪魔か?コパチンスカヤの演奏を観る(敢えて“観る”と表現してみます)とふとそんな事を想います。彼女の演奏は非常に演劇的であり、過剰で混沌とした音の渦からは反目する感情が立ち昇り、異形の心象を映し出すのです。

コパチンスカヤと言えば、エキセントリックともいえる独特の音楽的解釈、ダンスをするかのような裸足での演奏、バルトークを中心とした東欧世界の音楽を積極的に取り上げるなど、他のヴァイオリニストとは常に一線を画す存在です。最近では、シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」の演奏において、ヴァイオリンパートではなく歌唱パートを担当し、これまでにない斬新な作品世界を創り上げ、世界の度肝を抜いたのも記憶に新しいです。

そんな彼女が今回タグを組むのは「月に憑かれたピエロ」でも共演したヨーナス・アホネンです。アホネンのピアノはコパチンスカヤの独創的な演奏に完璧に寄り添うことができるだけでなく、真っ向から対峙するかのような荒々しさも兼ね備えており、今のコパチンスカヤとの組み合わせとして最高のピアニストであるのは間違いありません。

プログラムはベートーヴェンの偉大なる2曲のソナタと、それを挟むようにして演奏される20世紀に作曲されたシェーンベルクとウェーベルンのヴァイオリン作品。一見すると時代の対比を描こうとしているように思えますが、そう単純なものではなく、敢えて並列に配置することで時代性を超えた新たな音世界を描いてみせようという想いを感じます。そこにユートピアを夢見るのか?それともディストピアか…?

果たして慈悲深く残酷な天使/悪魔は、何を描きどんな演奏を魅せてくれるのでしょうか。今から楽しみで仕方ありません。



©MARCO BORGGREVE

パトリツィア・コパチンスカヤ (Patricia Kopatchinskaja／ヴァイオリン)

モルドヴァ生まれ。作曲とヴァイオリンをウィーンとベルンで学ぶ。2000年シェリング国際コンクール優勝、02年「クレディ・スイス・グループ・ヤング・アーティスト賞」ほか受賞多数。世界各地の音楽祭からも数多く招かれ、ルツェルン、ザルツブルク、ウィーン芸術週間、ロッケンハウスなどに出演。コパチンスカヤが音楽監督を務めた18年のアメリカのオーハイ音楽祭では、ルツェルンでの世界初演に続き、自身が構成したコンセプトチュアルなステージ・プログラム《ディエス・イラエ》を上演し、好評を博した。録音としては、14年よりアーティスティック・パートナーを務めるセントポール室内管弦楽団との共演による「死と乙女」で18年のグラミー賞を受賞。使用楽器は英国の『The Strad』誌で「色鮮やかな音色を持つ楽器。そのヴィオラのような性質は彼女の演奏に格別な喜びを添えている」と評された、1834年製プレッセンダ。

ヨーナス・アホネン (Joonas Ahonen／ピアノ)

ヨーナス・アホネンはフォルテピアノによる18世紀後期作品の演奏から現代作品の世界初演まで幅広い音楽的関心を持ち、現代曲の代表的な演奏団体のひとつでもあるクラングフォルム・ウィーンや、ピリオド楽器を用いて古典派やロマン派の作品を演奏するロードベリ三重奏団のメンバーとして活躍。テオドール・クルレンツォイスが主宰するディアギレフ・フェスティバルでは、リサイタルの他にフィリップ・マインツのピアノ協奏曲を演奏した。パトリツィア・コパチンスカヤとはロッケンハウス音楽祭やウィーン・コンツェルトハウスなど世界各地で演奏を行っている。多くの録音も行っており、アイヴズのピアノ・ソナタを収録した2枚組などが発売されている。

■注目アーティストシリーズ82

2023年
4月28日(金)

19:00開演 指定席
一般¥4,000(友の会会員¥3,600)
学生(25歳以下) ¥1,000

チェロは歌う! 唯一無二、規格外の巨匠、待望の単独公演

ジョヴァンニ・ソッリマ 無伴奏チェロリサイタル

出演 ジョヴァンニ・ソッリマ(チェロ)

曲目 J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007
無伴奏チェロ組曲 第3番 八長調 BWV1009
ソッリマ:ナチュラル・ソングブック 第4番、第6番
ラメンタチオ
ファンダンゴ(ボッケリーニへのオマージュ)

ジュリオ・デ・ルーヴォ:ロマネッラ、チャッコーナ、タランテッラ
フランチェスコ・コルベッタ(ソッリマ編):カプリス・デ・シャコンヌ
シチリアのアルバニア系住民に伝わる伝承曲(ソッリマ編):美しきモレアよ

※プログラムは変更の可能性があります。



“一匹の美しき野獣”と評されるソッリマの演奏は、骨太でまさに自由闊達。一見すると激情に任せた無謀な演奏のように思えますが、その実は理性と知性に裏付けされた確信に満ちた迫力の演奏です。今回はチェロ曲の定番であるバッハのチェロ組曲第1番、第3番を中心に実に多彩なプログラムとなっています。特にソッリマのオリジナル曲は、極限までチェロを使いこなす超絶技巧、どこか異国を感じさせる情緒溢れる旋律など、非常に特徴的で魅力に溢れており、多くのチェリストから支持され演奏されるほどの人気曲。是非、この機会にお聴きください。

ジョヴァンニ・ソッリマ (Giovanni Sollima／チェロ・作曲家)

1962年イタリア生まれ。世界最高峰のチェロ奏者兼作曲家。ジャンルを超えた幅広い活動で知られ、クラシックはもちろん、ジャズ、ロック、即興演奏まで弾きこなし、圧倒的な表現力と高純度の感性で美しい広大なスケールの音楽を生み出し続けている。これまでにリッカルド・ムーティ、マルタ・アルゲリッチ、ヨーヨー・マ、フィリップ・グラス、クラウディオ・アバドなど数多くの巨匠と共演。近年ではマリオ・ブルネロや2CELLOSをはじめ、世界中のチェリストがソッリマの楽曲をレパートリーにしており、チェロの可能性を広げているだけでなく、作曲家と演奏者の垣根をも取り外しつつある。後進の育成にも力を注いでおり、サンタ・チェチーリア音楽院で教鞭をとっている。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
- ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
- ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

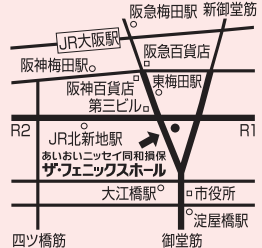
https://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
- ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。
- ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



四ツ橋筋 御堂筋

チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をさせていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

03

04

Osaka Guitar Summer 2022 リポート

3年ぶりの開催となりましたOsaka Guitar Summer 2022が無事終了しました。今年は恒例の公演に加えて、新企画となる大阪の実力派ギタリスト4人による「ギター・ア・ラ・カルト」公演をようやく実現する事ができました。岩崎慎一さん編曲によるギター四重奏版「展覧会の絵」は、ギターならではのアレンジが随所に施された素晴らしい演奏でした。

メインコンサートの「福田進一&大萩康司ジョイントリサیتال」も3年越しに開催。師弟関係でもある二人の和やかで息の合ったデュオコンサートはまさに絶品でした。また、大萩さんのソロ演奏では、ギターの先に風鈴をつけて演奏するという珍しい曲を披露。不思議な音世界が広がっていました。次代を担う若きギタリストの公開マスターク

ラスもお2人を講師に行いました。年々レベルが上がっており、充実したものとなりました。また、アマチュアギタリストが10回程度の合同練習を経て演奏を披露するギターアンサンブルワークショップでは、足立知謙さんが作曲された「Virgin Forest I、II」を世界初演しました。この曲は非常に爽やかで疾走感がある曲ですが、練習の成果をお客様に存分に披露できたのではないかと思います。

次年度に向けて、Osaka Guitar Summerのプロジェクトはもう動き始めています。来年も皆様に楽しんでいただけるギターフェスティバルにしていこうと思っていますので、是非また、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでお会いしましょう。



ご存じですか？
ギターアンサンブルワークショップの課題曲としてホールが委嘱した2作品が、楽譜になっています。
林そよか: 夏空スケッチ
西森久慈: ツインガレスカ序曲
現代ギターGGショップで絶賛発売中です！
Tel.03-3530-5343 (12:00～17:00/土・日・祝日休)
<https://www.gendaiguitar.com>



LIVE LIFE

Osaka Guitar Summer 2022のダイジェスト動画を、YouTubeのLIVE LIFEチャンネルでご覧いただけます。Osaka Guitar Summerの様子を是非、ご覧ください。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの公式Twitterアカウントを開設しました

ホール主催公演の情報を中心に、ホールのさまざまな取り組みやホールを身近に感じいただける情報を発信してまいります。Twitterアカウントをお持ちの方は、ぜひフォローや投稿のシェアをお願いいたします。Twitterアカウントをお持ちでない方も右記URLリンクよりご覧ください。

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

地域の皆さまとともに。

弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業経営を行っており、弊社およびグループ企業にて培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域企業のお役に立ちに向けた支援を行っております。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1 <https://www.aioinissaydowa.co.jp/>

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

協賛公演 本公演は当初予定しておりました「ミハレ・カニユカ ピアノトリオ・プロジェクト」の代替公演として企画開催されるものです。
The 25th Anniversary Concert by Kojima Concert Management
コジマ・コンサートマネジメント 創立25周年記念公演
主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中 漆原朝子(ヴァイオリン) & 伊藤 恵(ピアノ) ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会
2022年12月9日(金) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,900) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 漆原朝子(ヴァイオリン)、伊藤恵(ピアノ)

曲目 ブラームス: ヴァイオリンとピアノのためのスケルツォ 八短調 WoO 2 (「F.A.E. ソナタ」第3楽章)
ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」 op.78
ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 op.100
ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 op.108

漆原朝子は2004年に「ブラームス: ヴァイオリンとピアノのための作品全曲演奏会」を巨匠バリー・スナイダーと行い、新聞評などで絶賛。その際に収録されたライブ音源はCDとして発売され、これも高く評価された。漆原朝子によるブラームス全曲演奏は、それ以来大変久しぶりのこと。朝比奈隆、ジャン・フルネなどの往年の巨匠達からの信頼も厚く、豊かな経験をもつ名手伊藤恵との共演は、新たな格別なる感興を私たちにもたらすことであろう。

協賛公演 沖仁 デビュー20周年/アルバムリリース記念ツアー ~20 VEINTE [ベインテ] ~
主催 ジンズ・アクション

発売中 2023年1月8日(日) 13:00開演 指定席 前売¥6,500(友の会会員¥5,850) 当日¥7,000(友の会会員¥6,300) **残席僅か**

出演 沖仁(フラメンコギター)、伊集院史朗(パルマ、カホン、フラメンコ舞踊) ゲスト: U-zhaan[ユザン] (タブラ)

曲目 ニューアルバム「20 VEINTE~20年の軌跡~」収録曲 ほか

2002年のデビュー以来、日本を代表するフラメンコギタリストとして活躍する沖仁。デビュー20周年を飾るニューアルバム「20 VEINTE~20年の軌跡~」のリリースを記念した全国ツアーが決定しました。タブラ奏者のユザンをゲストに迎え、アルバム収録曲+αのスペシャルな内容でお贈りします。フラメンコギターへの情熱と魅力がたっぷり詰まった20年の軌跡となるステージ、ぜひご期待ください。

協賛公演 トリオ・スペリオール ~ベル・エポックをもう一度~
Trio Superior vol.3
主催 Concerto di Primavera (コンチェルト・ディ・プリマヴェーラ)

11/21(月) 発売 2023年3月21日(火・祝) 14:00開演 指定席 前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) ※友の会割引はお1人2枚まで。前売のみ。

出演 泉原隆志(ヴァイオリン)、上森祥平(チェロ)、佐藤卓史(ピアノ)

曲目 ドビュッシー: ピアノ三重奏曲 ト長調
フォーレ: ピアノ三重奏曲 二短調 op.120
ビエルネ: ピアノ三重奏曲 八短調 op.45

トリオ・スペリオール、今回はフランスの香り溢れる作品をお届けします。自筆譜の所在すら不明で幻の作品と言われたドビュッシーのトリオ、フォーレが晩年に書いた、静謐・簡潔で澄んだ佇まいを持つ名曲、ピアノ三重奏曲二短調、そして後半にはドビュッシーの同級生だったビエルネのピアノ三重奏曲、「フランス音楽とは何か」が語りつくされているような洗練された作品です。陽春の光きらめく中、スペリオールの至福の響きをお楽しみください！

協賛公演 KCM Concert at The PhoeniX Hall, Osaka ~関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽~
~京響メンバーによる~
レ・ミュージシャン de Kyoto ~オール・ドヴォルジャーク・プログラム~
主催 コジマ・コンサートマネジメント

11/11(金) 発売 2023年3月28日(火) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,900) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 田村安祐美、塩原志麻(以上ヴァイオリン)、小峰航一、丸山緑(以上ヴィオラ)、ドナルド・リッチャー(チェロ)
ゲスト/黒川冬貴(コントラバス)

曲目 ドヴォルジャーク: 2つのヴァイオリンとヴィオラのための「ミニアチュア」 op.75a, B.149 (ヴァイオリンとピアノのための「4つのロマンティックな小品」 op.75の原曲)
弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 op.77, B.49~2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる~
弦楽五重奏曲 第3番 変ホ長調 op.97, B.180~2つのヴァイオリン、2つのヴィオラ、チェロによる~

2022年3月の“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”でブラームス: 弦楽五重奏曲全曲を演奏した京都市交響楽団のメンバーたちが、新たに 弦楽五重奏を核とした様々な室内楽レパートリーに挑戦行くことを目的に、レ・ミュージシャン de Kyoto というグループ名を冠して再登場。「レ・ミュージシャン」とはフランス語で「音楽家達」の意。

2022年度「エッセいでっせ」(全6回)は、各地で開催される音楽祭をご紹介します。気になる音楽祭に出かけてみませんか？

北陸有数のフェスティバル 武生国際音楽祭



福井県越前市で9月上旬の約1週間にわたり開催されているフェスティバル、それが武生(たけふ)国際音楽祭だ。1990年に、地元の音楽ファン、ピアニストの舘野泉、そして武生市(現在の越前市)が連携して「フィンランド音楽祭'90武生」を実施していらい毎年途切れることなく続いており、この文章を書いている9月には第33回の音楽祭がちょうど閉幕したところである。

武生国際音楽祭の大きな特徴は、コンサートプログラムの中に占める現代音楽の存在感の大きさだ。音楽祭が生まれた当初から現代曲を積極的に取り上げてきたが、2001年に日本を代表する作曲家の細川俊夫を音楽監督に迎えたことで現在まで続く路線が確定した。特に、世界初演や日本初演の曲が多数演奏される「細川俊夫と仲間たち」や「新しい地平」などのコンサートは、普段の生活では出会えないような作品を一挙に聴ける面白さがある。更にこれらのコンサートと並行して、若手作曲家のための「武生国際作曲ワークショップ」も開催されており、ここでは細川をはじめ世界的に活躍する作曲家や演奏家による講義が行われる。今年は、現代音楽の分野で「人間国宝級」と評されるアルディッティ弦楽四重奏団が講師として参加し、彼らが世界初演したクセナキスの『アケア』を実演指導するという幸運にも恵まれた。このように、武生は作曲という営みと演奏会とが深く結びついた、日本でも数少ない音楽祭といえる。

一方で、古典からロマン派にかけての室内楽作品を扱ったコンサートが充実しているのも武生国際音楽祭の魅力だ。この分野でプロデューサーを務めるのは、ザ・フェニックス



スホールでもお馴染みのピアニスト伊藤恵。例えば、今年の「チェロ音楽の夕べ」コンサートでは、ピアニストとして伊藤、津田裕也、北村朋幹、そしてチェリストとして上野通明、岡本侑也、水野優也が出演するという何とも贅沢なラインナップとなった。武生に出演した後に大きく飛躍する演奏家も多いので、何を演奏するかだけでなく誰が演



奏するかにもぜひ注目してほしい。

武生国際音楽祭のイベントはこれだけではない。小中学校の生徒や未就学児を対象にした「スクールコンサート」や、公共施設・寺院・企業が会場となる「まちなかコンサート」などのアウトリーチコンサートにも力を入れている。また、若手演奏家のための「武生国際夏季アカデミー」や「ピアノ公開レッスン」も開催し、音楽祭に参加する演奏家によるレッスンも実施している。

以上の活動が地元有志の「武生国際音楽祭推進会議」によって運営されていることも、この音楽祭の大きな特色だ。コンサートの企画立案、招待演奏家との交渉、当日の会場設営に至るまで、推進会議メンバーが中心になって進められている。彼ら／彼女らに共通するのは「郷土愛」。音楽祭を通じてまちに活力を与え、日本や世界に誇れる地域にしたいという情熱こそが、30年以上も音楽祭が続いてきた最大の理由だろう。

さて、来年の音楽祭は2022年に引き続き「弦楽四重奏」がテーマになる。今年は現代曲が中心だったが、弦楽四重奏は18～20世紀に数多くの名曲を擁する歴史あるジャンル。現在、細川、伊藤両氏と一緒にプログラムや出演者の確定に向けて準備が進んでいるので、どうかご期待いただきたい。

余談だが、2024年の大河ドラマ『光る君へ』は、平安時代の越前国府であった武生に1年余り住んだ紫式部が主人公となる。また、同年春には、最寄りの「越前たけふ駅」を含む金沢～敦賀間の北陸新幹線が開通する。今後ますます魅力を増す越前市で、武生国際音楽祭を楽しんでほしい。

(公益財団法人 越前市文化振興・施設管理事業団 林良彦)

■公演情報

武生国際音楽祭2023

日程:2023年9月3日(日)~9月10日(日)[予定]

主催:武生国際音楽祭推進会議 公益財団法人 越前市文化振興・施設管理事業団

詳細は追って発表いたします。詳細は公式HP(<http://takefu-imf.com/>)をご覧ください。

武牛国际音白(双)

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2022年11月
発行 あいおいニッセイ同和損保
編集 ザ・フェニックスホール
デザイン 上田英司
松井桂三有限会社

